

福谷 未来創造ちばの福谷章子でございます。会派を代表いたしまして、議案第112号から119号の当局提出議案については、各委員長報告どおり賛成の意を表し、また、共産党提出の発議第6号については反対の意を表し、そして、以下、[議案第119号・千葉市新基本計画について委員長報告に対し賛成の立場から討論](#)をいたします。

新基本計画は、千葉市の未来を豊かにするまちづくりの方向性を示す計画として、さまざまな個別計画の上位に位置する大変重要な計画です。千葉市では、平成12年に現基本計画、ちば・ビジョン21を策定し10年が経過しておりますが、千葉市を取り巻く状況は策定のころから大きく変化しています。千葉市人口動態等基礎調査報告書によりますと、千葉市の将来人口は、平成27年に約97万人に達した後減少に転じる見込みとなっており、あわせて、少子・超高齢化が加速することにより生産年齢人口が減少します。その結果、経済規模は縮小し、都市構造も集約されていくことは必定です。また、今後の人口見通しとともに財政状況の厳しい現状からも目をそむけるわけにはいきません。拡大社会を所与のものとし、大きく、早く、大量にという価値こそが発展のあかしと思い込んできた私たちには、いまだかつて経験したことのない社会構造の中で豊かな未来を創造する必要に迫られています。つまり、あれもこれもが許された時代から、あれかこれかという選択を余儀なくされるわけで、対立する利害の関係者を巻き込み、納得のもとに何事も決定していくという力を一人一人が持つことが求められているのです。このような状況の中で15年計画であるちば・ビジョン21は、計画期間を5年残していますが、社会構造の変化に対応すべく新基本計画を策定し、新たな方向性を示すことは大変重要な時宜を得たことと思います。

新基本計画の「私から！未来へつなぐまちづくり」としたまちづくりのコンセプトは、自覚的な市民一人一人の主体性に基づいて分権型社会を築いていこうとするもので共感が持てます。しかしながら、そのためには市民意識の醸成が何よりも大切であり、子供から大人まで地域や社会の一員として参画を促していくことが必要です。策定に当たっては、タウンミーティング、座談会、シンポジウム、ワークショップ、インタビュー、懇談会、アンケートという、あらゆる手法で市民の意見を吸い上げ、計画づくりにかかわった主体も、中高生から有権者、企業、団体など、さまざまでした。そして、40人の委員からなる千葉市新基本計画審議会は、公募の委員、専門家、組織代表など、さまざまな主体で構成され、また、部会に分かれて熱心な議論がなされ、答申が出されました。このように、策定の経過に多くの市民を巻き込んだことは貴重な実績です。本計画の構成は、五つのまちづくりの方向性を示し、それらを推進するために、まちづくりを支える力として、さまざまな主体が連携して織りなすまちづくりの底力をしっかり位置づけています。また、区基本計画は、各区の区民検討会で話し合われ、今までの統一的なものから、それぞれの区の特性が活かされた計画となっており、今後の区への役割の移行の布石となるものであり、区への分権を志向するものとして期待をするものです。

本計画策定の終盤においては、東日本大震災が起き、地震のみならず、津波被害、放射能被害、加えて風評被害も相まって、地域の問題のみならず、人間社会としての困難に遭遇しています。千葉市においても、液状化による被害や放射能汚染への不安感など、解決すべき事柄が山積していますが、それらの課題についても盛り込まれました。一方、議会においても、新基本計画策定調査特別委員会を設置し、議論を重ね、議会としての意見を計画に反映させてまいりました。震災後の差し迫った状況においては、3月に開催されるはずであった特別委員会が開催されず、議会として審議が十分に尽くせていないのではという懸念もありましたが、今回の特別委員会において審議は尽くされたものと考えます。今後、千葉市が自治分権の都市として歩いていくためには、二元代表制の一翼を担う私たち議会の役割も大きく、10年先の千葉市を見据え、市民の思いが込められた本議案に会派として賛意を表し、未来創造ちばの討論といたします。御清聴ありがとうございました。